

コミュニケーション能力の素地を育む外国語活動の工夫

— 児童を意欲的にコミュニケーション活動に取り組ませるための工夫を盛り込んだ指導案の作成と実践 —

外国語活動研究会議

研究員 青木 聖子 (川崎市立坂戸小学校)

毛塚 潤子 (川崎市立宮前小学校)

竹内 茜 (川崎市立大島小学校)

豊竹 美喜子 (川崎市立さくら小学校)

指導主事 明瀬 正一

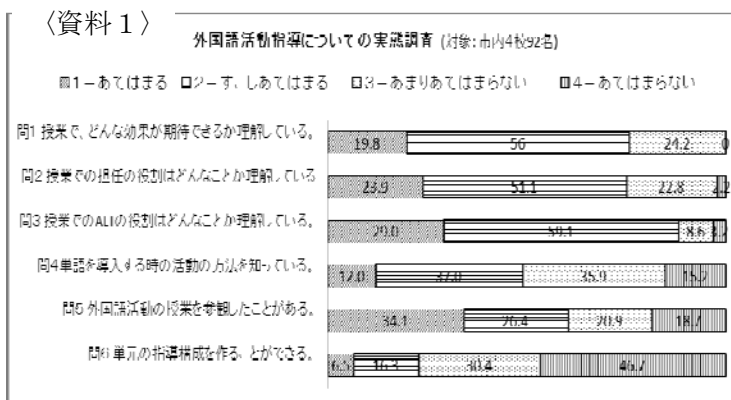
I 主題設定の理由

小学校外国語活動の目標は、①言語や文化について体験的に理解を深めること、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること、③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること、の三つの柱からなっている。そして、この三つの柱を、いずれも外国語を用いて体験的に行うことをとおして「コミュニケーション能力の素地を養う」ことが求められている。このことから、外国語活動が外国語のスキル習得をめざしているものではないことが理解できる。当センターでは、外国語活動の目標を達成するために、平成21年度小学校外国語活動研究会議の「コミュニケーション能力の素地を育てる指導～子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫～」において、どのような指導の工夫をすれば「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を図ることができるのかについて、その詳細を既に示している。本研究では、平成21年度の当センターの研究を受け、さらに具体的な指導案(モデル授業)を作成し、小学校教員へワークショップ型の研修を通して提示することとする。その際に、前述の当センターの研究で示された「子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫」に軸足を据えて指導案を作成する。また、外国語活動の指導者については、学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」の(5)において、「指導計画の作成や授業の実施については、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行うこととし(中略)指導体制を充実すること。」とある。外国語活動を中心になって推進する者を、外国語活動担当者または担任とされているが、小学校教員は、自身が外国語活動の授業を受けた経験がなく、また、モデルとなる授業を見たことがない教員も多い。このため、現在も指導する際に何らかの困難な状況あるいは課題を抱えていることが考えられる。そこで、外国語活動を指導するにあたって教師がどこに困難を感じているかを把握し、その困難を克服できるよう具体的かつ効果的な指導案を作成することとした。

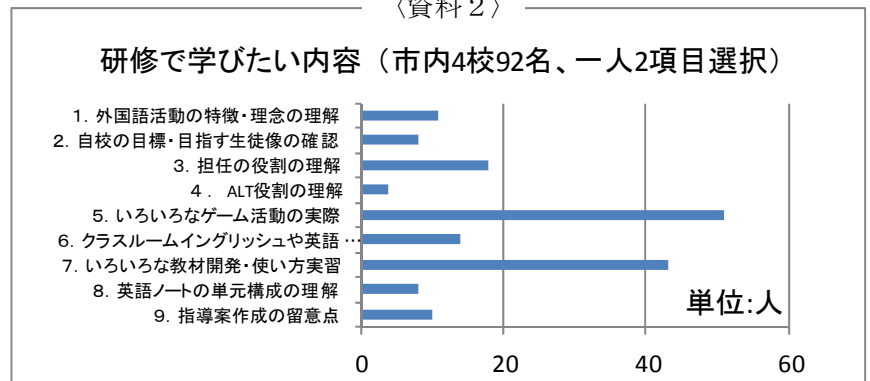
II 研究の内容

1 教員の実態把握

まず、研究員が所属する4校の職員へのアンケートから、教師が抱える問題点を明らかにしようとした。アンケートの結果は、〈資料1〉の通りである。この結果から、授業での具体的な活動や、単元の構成に自信をもてない教員が多いことがわかる。始まったばかりの外国語活動に不慣れであることに起因していると考えられるが、教師自身がその授業



を受けた経験がなく、授業を見た経験も極端に少ないためと考えられる。それは、〈資料1〉のアンケート問5の「外国語活動の授業を参観したことがあるか」という設問の回答からも見て取ることができる。答の選択肢は1=1時間通しで数回、2=1時間通しで



1・2度、3=断片的に数回、4=ほとんど、または全く見たことがない、となっており、実に66%にも及ぶ教師が、実際の授業を見た機会が1・2回、あるいはそれ以下であることがわかる。また、〈資料2〉の「研修で学びたい内容」のアンケート結果を見ても、設問5「いろいろなゲーム活動の実際」という回答が多い。このことから「授業において、どのような活動を仕組みばいいのかわからない。」教師の姿が、浮かび上がってくる。

2 課題の明確化

研究員が所属する4校の職員へのアンケートから2つの課題が明らかになった。1つ目は、単元の指導をどのように構成したらよいか明確にすること。2つ目は、単元の中の1時間毎の授業の中に、具体的にどのような活動を取り入れたらよいかを明確にすることである。どちらの課題も1単元分の指導案を作成し、示すことにより、「単元をどう構成すればいいのか。」「授業の中において、どのような活動を仕組みばいいのか。」を具体的な指導案(モデル授業)で示すこととする。ここで気を付けるべきことは、単元の最後に設定するコミュニケーション活動に、いかに児童の判断や選択、または創造力が生かされるような児童にとってやりがいのある要素を組み込むかということである。なぜならば、主題となっている「コミュニケーション能力の素地を育む」ためには、コミュニケーションを図ることの楽しさや達成感を児童に感じさせることが必須だからである。このような授業づくりについては、当センターの平成21年度小学校外国語活動研究会議による「コミュニケーション能力の素地を育てる指導～子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫～」において既に示されており、その理念を具体化させた指導案を作成し、提案することとする。なお、実際の授業を通して児童の反応や様子を観察しながら指導案に修正をかけ、その中のコミュニケーション活動が、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うために十分に効果的であるよう作成する。

3 指導案の作成

(1) 作成する指導案の視点

①指導案で取り上げる単元

「英語ノート1 Lesson.5 関連 コーディネートを考えよう」「英語ノート2 Lesson 5 関連 道案内」の2単元とする。

②単元最後の授業づくりの視点（タスク設定の視点）

児童の「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するための工夫として、児童に達成感を味わわせるタスク活動を設定する。「知的な要素、達成感のある活動、創造的で児童が自分の考え・判断・選択により英語を話す場面」を単元最後のコミュニケーション活動に設定する。

(2) コミュニケーション活動の視点

①「英語ノート1 Lesson5 関連 コーディネートを考えよう」

児童を客と店員の2つのグループに分け、客になった児童は、行きたい場所に応じて自分なりの服を考え、限られた予算の中でやりくりし、買い物をする。コーディネートした自分の服を友達と紹介し合い、感想を交換し合いながら、コミュニケーションの難しさや伝わった時の喜びを知るとともに、自分のコーディネーションが友達と似ていたり、違っていたりすることに気付く。

②「英語ノート2 Lesson5 関連 道案内」

児童を「案内役」「尋ねる人」の2つに分ける。案内役の児童が地図を持っており、「尋ねる人」は、案内された場所（机の前）に行くまで、そこが目的の場所かどうかわからないようにする。

(3) 指導の工夫と単元構成

①「英語ノート1 Lesson5 関連 コーディネートを考えよう」

単元名 「コーディネートを考えよう」

1 単元構成について

単元のゴールで、児童が英語で買い物のやりとりをする。そして、自分達のコーディネートを紹介し合い、互いにそのコーディネートを褒めたりできることを目標にした。それらの活動に必要な学習内容を考えて、単元を構成していった。

2 子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫

(1)それぞれが考える場面

児童は、指示カードに応じた服装を揃えることを目標とするが、同じ指示であっても、それぞれの経験や好みに基づいてコーディネーションを考えられるよう活動を仕組む。

(2)やり取りの必要性

お店の在庫や商品の値段がわからないようにし、お客さんが、「～はありますか？」と聞く必要性や値段を聞かなくてはならない必要性を演出する。予算内での買物のため、値段交渉も可とする。

(3)共感 認め合うこと 他者の尊重 気づき

自分のコーディネーションの発表をとおし、「自分と同じ指示なのに、違う組み合わせだ」「○○ちゃんは、何色が好きなんだね」など、身近な友達の新たな発見ができるようにする。単元の目標

3. 指導と評価の計画（4時間）

| 時 | 目標・活動 | 評価の観点 | | | 児童の様子 |
|---|---|-------|---|---|--|
| | | コ | 慣 | 気 | |
| 1 | 外国の衣装について関心をもち、色や衣服の言い方に慣れる。 ・外国の衣装について知る。 ・色や衣服の言い方を練習する。 カードゲーム<Do you have~?> | | ○ | ○ | 衣服の言い方を知る。黒板に人型を掲示し、それに合わせながら衣服カードを提示していった。「Do you have~?カードゲーム」では楽しみながら、繰り返し衣服の名前を言うので、自然とそれらに慣れ親しむことができた。 |
| 2 | お店でのやり取りに慣れる。 ・CDを聞く。 ・お店でのやり取りを練習する。 | | ○ | | 前時の「Do you have~?カードゲーム」で扱った表現を、お店でのやり取りに発展させ、練習した。「Discount, please.」や「How much?」はすぐに理解し、早く買い物をしてみたいという、興味や意欲の高まりが感じられた。 |
| 3 | 指示カードに合うコーディネーションのために、自分が必要なものを買う。 ・指示カードに合う服装を考え、<買い物ごっこ>をする。 | ○ | | | 指示カードに合わせて、衣服や色を考えて買い物をしていた。架空のお金を使用したため、臨場感も演出でき、希望の品を買うことができたときの達成感に高まりが見られた。英語でのやり取りをととても上手に楽しみながらできていた。 |
| 4 | マイコーディネーションを紹介する。友達の発表をしっかりと聞く。 ・どんなTPOに合わせた服装なのかグループで紹介したり、友達の服装について聞いて賞賛したりする。 | ○ | ○ | | 前時に買い物をした衣服カードを、my coordinationカードに貼って、それを見せながら自分のコーディネーションを友達に紹介した。発表の仕方の練習時間をとることで、友達と教え合ったり自信をもって話したりすることにつながった。自分の思いが伝わりやすいように言ったり、よく聞いて感想を言ったりすることができていた。 |

4. 考察(児童の感想を参考に)

「お客さんの時、はっきりとお店の人に言うことができました。お店屋さんの時はよく聞いて渡すことができました。」「値下げの言葉をうまく言えた。」などの児童の感想から、状況設定や教室内の店の雰囲気作り、お金のやりとりの設定により、臨場感のあるコミュニケーション場面が生み出せた。自分が考えたコーディネートだからこそ「英語で言えてよかった。」という達成感や、「私と同じ所に行くのにコーディネートが違っていておもしろかった。」「みんなテーマに合ったコーディネートで、思わず英語で感想を言う気にさせられました」などと共感しながら聞く楽しさも大きくなる。実際にそのような感想が多かった。最後の発表の時間には、最初に自分の名前を言ったり、最後に“Thank you.”を付けたりし、形通りの英語を口にするだけに集中しないようにし、子どもたちの思いをなるべく引き出すようにした。難しい英語表現(卒業式、おじいちゃんの家など)に対しても、子どもたちは英語で言おうと意欲的だった。ぜひ担任が後押しすることが大切である。感想を言う児童の「英語で言ってみよう」という気持ちも大切にしたい。

②「英語ノート2 Lesson5 関連 道案内」

単元名「道案内」

1 単元構成について

単元の目標として、自分が決めた行きたいところへの道順を積極的に尋ねたり、わかりやすく目的地に案内したりすることを目標とした。目標とする活動から、この単元で必要な表現や学習内容を考えて各時間に配当をし、単元を構成していった。

2 子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫

(1)それぞれが考える場面

「行きたい場所」については、例えば、「今日は友だちのお見舞いへ行きます。お見舞いを買って、病院へ行きましょう。」というようにどこで、何をかうのかの判断は児童に任せられるようにする。

(2)やり取りの必要性

ダイナミックに体を動かせるよう、教室や体育館を机を利用しながら街に見立て、机上には建物が描かれたシールを入れた封筒を置く。そのため、道を尋ねる子どもたちには、どの机がどの建物なのか分からない。これにより、道を尋ねる必要性が生まれる。

(3)共感 認め合うこと 他者の尊重 気づき

児童の今までの生活経験が反映されるよう、どこに何をしに行くかの判断は児童に任せられる。同じ指示カードを引いても、買いたいものや行き先が異なり、子ども同士の他者理解にもつながる。

3. 指導と評価の計画(4時間)

| 時 | 目標・活動 | 評価の観点 | | | 児童の様子 |
|---|---|-------|---|---|---|
| | | コ | 慣 | 気 | |
| 1 | 外来語と英語本来の発音の違いに気づき、町中にある建物などを英語らしい発音で、言う。 ・ゲーム<「単語は続くよ、どこまでも」「ゴー・フィッシュ」> | | ○ | ○ | デパートなどの言い方は実際の英語と発音が異なることにも気がつき、繰り返し発音している姿が見られた。ゲームでは、楽しそうに英語を口にし、言い方に慣れ親しむことができた。 |
| 2 | 方向や動きを指示する表現を聞いて、指示どおりに動く。 ・建物の言い方を復習する。 ・ゲーム<いまどこにいるの?> | | ○ | | 必要な方向や動きを指示する表現を身につけるための数字シートを用いた「いま、どこにいるの?」ゲームなどで行った。ここでの向きを変える動き方の約束が、道案内での第4時の活動でも生きていた。とても楽しく活動していた。 |
| 3 | 目的地への行き方を相手に伝えたり、行き方を聞いて理解したりする。 ・教室の中で、ペアで道案内の練習をする。 | | ○ | | これまでの授業で慣れ親しんだ建物の言い方と、方向や動きを指示する言い方を活用しながら進めることができていた。次時の道案内へ向けて頑張ろうとする意欲が感じられた。 |
| 4 | 積極的に自分の行きたいところを伝えようとしたり、目的地に案内しようとしたりする。 ・体育館で3役にわかれて、道案内をする。 | ○ | | | どこにどの建物があるか分からなくしているため、道案内する児童も尋ねる児童も一生懸命に伝え合っていた。英語以外の、ジェスチャーや表情から理解しようとする姿も見られた。工夫しながら伝え合い、うまく伝わった時の達成感は大きいようだった。 |

4. 考察(児童の感想を参考に)

25名の児童のうち、20名の児童が「自分の行きたい場所を、友達にとてもうまく伝えられた。」と感想を書き、「できなかった。」と書いた児童はいなかった。また、23名の児童は「友だちの道案内が、とてもよくわかった。」と書き、「できなかった」と書いた児童はいなく、単元の構成がうまくいったことがわかる。分かりやすく案内するための工夫としては、「体の向きを相手に合わせた」12名、「ジェスチャーを使った」8名「声の大きさを考える」10名等であった。その他、相手に近づく、わかりやすくはっきりと言う、などが挙がっていた。一人一人が一生懸命に伝え、聞こうとする姿が読み取れる。また、「英語で伝えて、友達が理解してくれてうれしかったです。」「〇さんが笑顔で接してくれて、うれしかった。」「〇さんがゆっくり大きな声で伝えてくれたので、たどりつけました。」など、どの児童も友達とのかかわり合いを楽しんでいたことがうかがえた。単元最後のコミュニケーション活動をスムーズに行うためには何が必要か、という観点から単元を構成していったことが、子どもたちにとって分かりやすい単元指導の流れを作ることになり、児童の生き生きと活動する姿を見ることができた。道案内の場面では、普段あまり声を出さない児童も、一生懸命伝えようとするなど、どの子も前向きに活動していた。体育館を使い、実際の道案内の状況に近づけたこと、行き先を自分で考えたり、建物の位置がわからないようにしたりしたことが意欲につながったのではないかと考える。指示カードの内容と、自分が選択した行き先を相互発表する場があれば、互いに他者理解が深まり、さらに充実した活動となるだろう。

4 作成した指導案の提示方法

授業を受けた児童の感想等から、作成した指導案(授業)が「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」のために必要な要素を十分にもっていることがわかった。この指導案と、さらに授業を通して、研究員が気付いた指導上の留意点などを細かく記入した指導案を小学校教員に提示することとした。その際、単元構成および1時間の授業内に、どのような活動をどのように行うとよいのかを文書だけの発表ではなく、より明確に教員に理解してもらうために、ワークショップ型の研修を行うこととした。

(1)「英語ノート1 Lesson5 関連 コーディネートを考えよう」

平成24年2月3日 午後5時～午後6時30分 宮前小学校において、近隣の学校に勤務する小学校教員を対象に研修を行った。作成した指導案のモデル授業の内容に沿って、単元の構成の仕方と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」をめざした授業における効果的な工夫について、前半30分間講義を行った。その後、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」という視点から、単元の中でもっとも重要なコミュニケーション活動にあたる3時間目の買い物をする活動と、4時間目の各自が考えたコーディネーションを紹介する活動を、およそ1時間かけて参加者に体験してもらった。

(2)「英語ノート2 Lesson5 関連 道案内」

平成24年2月7日 午後5時～午後7時30分 坂戸小学校において、近隣の学校に勤務する小学校教員を対象に研修を行った。作成したモデル授業の指導案の内容に沿って、単元の構成の仕方と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」をめざした授業における効果的な工夫について、前半60分間は、授業1時間ごとの目標に合った活動の演習を交えながら、講義を行った。その後、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」という視点から、単元の中でもっとも重要なコミュニケーション活動にあたる道案内の活動を、およそ30分間かけて参加者に体験してもらった。

(3) 研修の効果

本研究の目的は、すでに当センターで発表されている外国語活動の研究内容を具体化し、教員研

修において提示することに合った。その際、課題の明確化で示したように2つの課題、つまり、1つ目は、単元の指導をどのように構成していくのか、教員が理解しやすいように提示すること。2つ目の課題は、単元の目標を達成するために構成された1時間毎の授業において、具体的にどのような活動を取り入れていけばいいのかを明確に提示すること、これらの課題に対する解決策を教員研修において、講義と体験をとおして一層の理解を深めてもらうことであった。所期の目的である平成21年度の当センターの先行研究の具現化としての効果的な指導案（モデル授業）づくりについては、児童の感想等よりその目的を達成できたことは確認できたが、研修の効果については、研修を受講した参加者の感想およびアンケートから探る。

アンケートは、＜資料3＞の通り、研修会の目的に関連した2つの質問に絞っている。「授業づくりの基本は理解できた」と答える受講者の回答比率が88%に上っていることは、大きな成果と言えるのではないだろうか。アンケートの母体が違うので比較にはならないが、本研究会議開始当初の4校アンケートから見える授業におけるゲーム活動の実際の指導に対する不安の大きさを考慮しても研修の成果と考えることができる。また、「指導の単元構成を作ることができる」とする受講者は、4校アンケートではわずか23%に過ぎなかったが、事後のアンケートでは43.3%とおおよそ2倍の数になっている。これらの結果は十分に評価できると考える。

＜資料3＞

Ⅲ 研究のまとめ

児童の授業中の様子や模擬授業受講者の感想等から、作成した指導案による授業が目的を達成していると考えられる。指導に自信がない教師が実際に児童の立場で授業を受け、どのように授業を組み立てると楽しい達成感のある授業になるのか、体験することで授業づくりのイメージが上がり、自信をもつことができたことは大きな成果である。今後は、この研究で得られた成果を他の機会においても活用し、楽しく学びの多い授業づくりについて、広く川崎の先生方に知っていただくと考えている。

改訂学習指導要領に基づき、小学校外国語活動が単なる英会話活動に墮することにならないよう、外国語活動をとおして、児童の「ことばへの気づき」や「他との温かなかわり」、 「積極的なコミュニケーションへの態度」の育成に努力していかなければならない。

最後に、本研究を進めるにあたり、適切なご助言をいただいた先生方、研究をご支援いただいた研究員所属校の校長先生並びに教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

川崎市総合教育センター 「コミュニケーション能力の素地を育てる指導～子どもの伝えようとする意欲を引き出す活動の工夫～」 2010年

アンケート結果(研修受講者 60名のアンケート)

- 問1 指導の単元構成を作ることができますか。
 あてはまる 8.3% ややあてはまる 35%
- 問2 授業づくりの基本は理解できたと思いますか。
 あてはまる 28% ややあてはまる 60%
- 「本日の感想をお願いします。」 回答者より、抜粋
- ・今日のように友達とかかわりながら楽しんで学べる活動なら子供も意欲的に活動できるなど思いました。
 - ・ゲーム活動とつきたい力の関連がわかりやすくてよかったです。
 - ・今日は楽しい授業をありがとうございました。授業の組み立てを考えるヒントをたくさんいただきました。
 - ・体験できたので授業のイメージがわかりました。一番やりにくい単元だったので、このように教材を重ねていけば、誰が担当してもできるのかも、と思いました。
 - ・目標に向けて1・2時間目のあり方を考えることがとても心に残り、頑張ろうという気持ちになりました。 他